

加曾利貝塚由来人骨資料の調査・登録

—近年新たに検出された 1962 年から 1968 年発掘資料について—

久保 大輔
佐々木 智彦
諫訪 元

要 約

1962 年から 68 年にわたる千葉市加曾利貝塚の調査において、これまで 50 体ほどの縄文時代人骨の出土例が報告されている。近年、加曾利貝塚博物館の調査によって、1964 年から 68 年にかけて収集された遺物中から主として断片的な人骨類が新たに多数検出された。また 2010 年 2 月に県立千葉高校から加曾利貝塚博物館へ移管された遺物資料中に 1962 年調査に出来た人骨が検出された。今回の研究では、加曾利貝塚博物館による予備整理を経たこれらの資料を鑑定し、部位、年齢、個体数や既報告資料との対応関係などの基礎情報を整備することを目的とした。

今回の標本調査・研究の結果、加曾利貝塚博物館の予備同定を経た計 130 標本中 112 標本に人骨が確認された。その内訳は 1962 年北貝塚調査出来の 6 標本、1964 年南貝塚調査出来の 91 標本、1965 年から 67 年の北貝塚調査出来の 13 標本、および 1968 年 4 月加曾利貝塚博物館の野外施設建設直前に北貝塚で急遽行われた追加調査に由来する 2 標本（成人と乳児各 1 体）である。東京大学総合研究博物館に所蔵されている 1964 年から 67 年出土の既報告資料（水嶋ほか 2006）と照合した結果、今回調査した資料には、既報告資料のうち 8 体（加曾利南 1、加曾利南 2、加曾利南 10、加曾利南 16、加曾利南 17、加曾利南 18、加曾利南 20、加曾利北 II -5）に属する、あるいはその可能性が高い人骨が含まれることが確認された。さらに、川上報告（後藤 1977b）の記述と人骨から得られる所見の一一致から、これまで所在不明になっていた 1965 年北貝塚第 1 調査区出土の第 5 号人骨、および 1967 年北貝塚貝層区出土の第 13 号人骨の可能性がある人骨を含むことが確認された。また新潟大学医学部小片コレクションとの照合により、1962 年に加曾利北貝塚から発掘されたがその後所在不明となっていた第 3 号および第 5 号人骨の頭骨を含むことが確認された。

標本の基礎情報の整備に関して、今回調査した人骨資料は東京大学総合研究博物館と新潟大学医学部に移管されることになったため、博物館資料としての登録番号と標本名を付与するとともに、標本に付随する基礎情報のデータベース作成を行った。

1 調査の概要

千葉市加曾利貝塚からは 1962 年から 68 年にわたる調査により、北貝塚と南貝塚あわせて 50 体ほどの縄文時代人骨の出土例が報告されている（水嶋ほか 2006）。これらのうち 1962 年調査のものは主として新潟大学医学部第一解剖学教室（小片コレクション）に、1964 年から 67 年調査のものは主として東京大学総合研究博物館に、1968 年 8 ～ 9 月調査のものは加曾利貝塚博物館に収蔵されている。近年加曾利貝塚博物館によって上記期間に収集された遺物資料の整理が進められ、その過程で動物骨資料中から人骨類が多数検

出された。また 2010 年 2 月に県立千葉高校郷土資料室から加曾利貝塚博物館へ移管された遺物資料中に 1962 年の北貝塚調査で収集された人骨が検出された。これらの資料は加曾利貝塚博物館による予備整理を経たのち、より詳細な調査を行うため東京大学総合研究博物館へ搬入された。また搬入に際して、標本ごとの出土地点および取り上げ日に関する情報が加曾利貝塚博物館側から提供された。

2010 年 4 月までに 100 標本、6 月に追加の 1 標本を受け取り、人骨かどうかの鑑定、部位同定、年齢推定、最小個体数の算定、および既報告資料との照合を行なった。また、2011 年 4 月に 10 標本、6 月に 14 標本、7 月に 1 標本、2012 年 3 月に 4 標本の計 29 標本として受け取り、同様の調査を行なった。これらの標本のうち、2010 年 6 月、2011 年 7 月、2012 年 3 月に受け取った計 6 標本以外には、加曾利貝塚博物館による予備同定で分別された「若年～熟年」、「新生児・乳児」ごとに通し番号（それぞれ No.1 から No.82 までと No.1 から No.42 まで）が与えられていた。今回の標本調査・研究で人骨であると判明した資料のうち 1964 年から 68 年調査由来の標本は、加曾利貝塚博物館から東京大学総合研究博物館に移管されることとなった。そのため、改めて総合研究博物館の標本登録番号（UMUT 番号）と標本名を付与し、関連する諸情報の記録と整備を行なった。1962 年調査由来の標本は、一時に東京大学に移管されたのち、新潟大学医学部（小片コレクション）に移管された。なお人骨でない資料については調査後、加曾利貝塚博物館に返却した。

2 今回検出された人骨資料の構成

加曾利貝塚博物館による予備整理において人骨の可能性があるとされた計 130 標本を再鑑定したところ、112 標本に人骨が確認された。これらの人骨を既報告資料に対し「追加資料」として以下に報告する。内訳は、1962 年に県立千葉高校教諭武田宗久氏によって行われた加曾利北貝塚調査（武田 1975a）に由来するものが 6 標本、1964 年に加曾利貝塚調査団によって行われた加曾利南貝塚調査（杉原 1976）に由来するものが 91 標本、1965 年から 67 年にかけて同調査団によって行なわれた北貝塚調査（杉原 1977）に由来するものが 13 標本、1968 年 4 月加曾利貝塚博物館の野外施設建設直前に北貝塚で急速に行なわれた調査に由来するものが 2 標本であった。各標本の部位、年齢、最小個体数、および既報告資料との関係を今回付与した博物館登録番号（UMUT）と新規標本名とともに第 1 表に示す。以下、新規標本名と登録番号（UMUT）の付与手順について説明した後、標本群ごとに分析結果を述べる。

新規標本名と登録番号（UMUT）について

東京大学総合研究博物館に所蔵されている縄文時代人骨資料には、同じ来歴をもつ複数の標本をまとめるカテゴリとして「標本群」が設定されており、1964 年加曾利南貝塚調査由来の資料と、1965 年から 67 年にかけての加曾利北貝塚調査由来の資料にはそれぞれ加曾利南、加曾利北という標本群名が与えられている。今回の追加資料のうち 1964 年から 67 年にかけて収集されたものは既収蔵資料と同じ発掘調査に由来することから、加曾利南、加曾利北の追加資料という形で登録した。1968 年 4 月に収集された 2 標本は、1965 年から 67 年にかけての北貝塚調査と同じ発掘調査区で出土したものであるが、加曾利北の資料と発掘の時期や経緯が異なるため、新規の標本群加曾利北（'68.4）として登録することとした。

次に、個々の標本名であるが、加曾利南および加曾利北については、加曾利貝塚博物館の予備整理で付与された「若年～熟年」、「新生児・乳児」それぞれの通し番号の前に AJ (adult and juvenile)、NB (newborn and baby) の別を付記し、標本群名と組み合わせることで標本名とした。若干数の標本には加曾利貝塚博物

館による通し番号がつけられていなかったが、推定年齢を考慮して AJ か NB の通し番号を付け (AJ83, 84, 85, NB43, 44)、標本名を与えた。加曾利北 ('68.4) に属する 2 標本については、標本名をそれぞれ加曾利北 ('68.4) 1、加曾利北 ('68.4) 2 とした。

また、東京大学総合研究博物館所蔵縄文時代人骨資料には、1979 年までに登録番号 UMUT130001 から UMUT132478 までが割り振られているが (遠藤・遠藤 1979)、その後新規 UMUT 番号での登録は行われていなかった。今回の調査・研究を機に 2010 年以降の受け入れ資料について UMUT133001 から新規 UMUT 番号を割り振ることとし、加曾利貝塚追加資料には UMUT133006 からの番号を付与した。追加資料の大半は断片的な散乱骨であり、ほとんどの場合、相互に同一個体であるという積極的証拠を見出すことができなかつた。したがって、一部例外 (加曾利北 AJ57 と加曾利北 ('68.4) 1、第 1 表参照のこと) を除き、個別に新規の UMUT 番号と標本名を付与した。また、追加資料を既存標本と同一個体とみなした場合も、今回調査による判断であることを明示するため、新規の UMUT 番号を付した。

1962 年加曾利北貝塚出土人骨

1962 年県立千葉高校教諭武田宗久らによる加曾利貝塚発掘調査では第 1 号から第 5 号人骨と命名された 5 体分の全身骨が出土しており (宍倉 1975)、これまで所在の明らかなものは全て新潟大学医学部 (小片コレクション) に所蔵されている。今回の調査の対象となった 1962 年の追加資料は 2010 年 2 年に千葉高校郷土資料室から加曾利貝塚博物館に移管された資料に含まれていたもの (AJ61, 64, 65、番号なし) と以前より加曾利貝塚博物館が所蔵していたもの (AJ1, NB34) で、断片的な散乱骨 4 標本と保存状態の良い頭骨 2 標本 (AJ64, 65) の計 6 標本からなる。東京大学総合研究博物館所蔵資料と新潟大学小片コレクションとの照合、および追加資料間の照合により、6 標本が各々別個体であること、調査区が重なる 1965 年第 1 調査区川上土資料 (後藤 1977b) や 1968 年 4 月同調査区出土資料 (加曾利北 ('68.4) 2) とも別個体と見なしうること、保存状態の良い頭骨 (AJ64, 65) は出土状態が記録されて以降所在不明となっていた第 3 号と第 5 号人骨のものであることが確認された。これら頭骨を第 1 図に、既報告資料と追加資料の出土地点を第 2 図に示す。

1964 年加曾利南貝塚出土人骨

追加資料 112 標本のうち、1964 年の南貝塚調査に由来するものは 91 標本である。同発掘調査由來の既報告人骨資料 (後藤 1976b) のうち、所在の判明しているものは全て東京大学総合研究博物館に所蔵されている (水嶋ほか 2006)。既報告資料 (現在所在不明のものを除く) と追加資料全ての出土位置を地図上にプロットしたものを第 3 図に示す。資料間の照合により、既報告資料のうちの 7 体 (加曾利南 1, 2, 10, 16, 17, 18, 20) に属する、あるいはその可能性が高い標本の存在が確認された (加曾利南 AJ22, 23, 42, 51, 52, 53, 69, 79, NB23)。近傍グリッドや同一レンチから出土した追加資料同士が同一個体に属する可能性についても検討したが、ほとんどの標本が断片的な散乱骨であり、各々別個体に由来すると考えるのが妥当と思われる。

1965 年から 1967 年にかけての加曾利北貝塚出土人骨

追加資料 112 標本のうち、1965 年から 67 年の北貝塚調査に由来するものは 13 標本である。同発掘調査由來の既報告人骨資料 (後藤 1977b) のうち、所在の判明しているものは全て東京大学総合研究博物館に所蔵されている (水嶋ほか 2006)。既報告資料と追加資料の出土地点を第 2 図に示す。資料間の照合により、

既報告資料のうちの1体（加曾利北II-5）に属する、あるいはその可能性が高い標本（加曾利北AJ7）の存在が確認された。さらに、現在所在不明とされている1965年北貝塚第I住居址群調査区出土第5号人骨の脚部である可能性が高い人骨（加曾利北AJ8）、同じく所在不明となっている貝層堆積群調査区Bトレンチ出土第13号人骨の可能性が高い岩年個体骨（加曾利北AJ57）の存在が確認された。後者の保存状態を第4図に示す。

1968年4月加曾利北貝塚出土人骨

1968年4月加曾利貝塚博物館の野外施設建設直前にその建設予定地となった北貝塚の第I住居址群調査区と貝層堆積群調査区の追加調査が行われている。追加資料112標本のうちの2標本、加曾利北（'68.4.1および加曾利北（'68.4.2がこの調査に由来する。加曾利北（'68.4.1は成人1体分の四肢・体幹骨（第4図）からなり、荷札情報によると1967年収集の加曾利北AJ57標本と同じく貝層区Bトレンチ5グリッドから出土している。加曾利北（'68.4.1は、東京大学への搬入時点では、予備整理番号AJ58が付されており、加曾利北AJ57の一部（左橈・尺骨片、左距骨、左第一および右第四中足骨）と混在していたことも両者の出土地点が近いことを裏付けるものと解釈できる。加曾利北（'68.4.2は第I住居址群調査区から出土した人骨で、生後半年から1年の比較的保存のよい乳児骨1体からなる。

謝 辞

新潟大学小片コレクションとの照合は新潟大学の牛木辰男先生、熊木克治先生のご好意により、共同調査として実施することができた。両先生ならびに、同コレクションについてご教示くださった長崎大学の加藤克知先生に御礼申し上げる。加曾利貝塚博物館の村田六郎太副館長からは、今回の骨資料調査にあたり数々のご教示、ご指導を賜わった。ここに記して感謝申し上げる。

久保 大輔・佐々木 翔彦（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻）
諏訪 元（東京大学総合研究博物館）

引用文献

- 遠藤美子・遠藤萬里 1979 「東京大学総合研究資料館所蔵日本縄文時代人骨型錄」『東京大学総合研究資料館標本資料報告書』第三号
- 後藤和民 1976a 「加曾利南貝塚の調査経過」『加曾利南貝塚』中央公論美術出版 pp.14-19.
- 後藤和民 1976b 「加曾利南貝塚人の埋葬」『加曾利南貝塚』中央公論美術出版 pp.192-205.
- 後藤和民 1977a 「加曾利北貝塚の調査経過」『加曾利北貝塚』中央公論美術出版 pp.14-19.
- 後藤和民 1977b 「加曾利北貝塚人骨の埋葬」『加曾利北貝塚』中央公論美術出版 pp.204-213.
- 宍倉昭一郎 1975 「人骨の状態」『加曾利貝塚 I 昭和37年度加曾利北貝塚調査報告書』第3版 加曾利貝塚博物館 pp.45-48.
- 杉原莊介編 1976 『加曾利南貝塚』中央公論美術出版
- 杉原莊介編 1977 『加曾利北貝塚』中央公論美術出版
- 武田宗久編 1975a 『加曾利貝塚 I 昭和37年度加曾利北貝塚調査報告書』第3版 加曾利貝塚博物館

加曾利貝塚市人骨資料の調査・整備—近年新たに検出された 1962 年から 1968 年発掘資料について—
久保大輔・佐々木智彦・諫訪元

武田宗久 1975b 「調査の経過」『加曾利貝塚 I 昭和 37 年度加曾利北貝塚調査報告書』第 3 版 加曾利貝塚博物館

pp.8-10.

武田宗久・宍倉昭一郎 1975 「調査の概要」『加曾利貝塚 I 昭和 37 年度加曾利北貝塚調査報告書』第 3 版 加曾利貝塚
博物館 pp.12-25.

水嶋崇一郎・佐尔直衣子・久保大輔・諫訪元 2006 「縄文時代人骨データベース 3) 千葉県の遺跡(堀之内、加曾利、吾谷
など)」『東京大学総合研究博物館標本資料報告』第 61 号.

第1表 加曾利貝塚出土人骨新規登録標本

UNUT	標木名	予備整理 No.*	出土位置 **	取り上げ日	部位・備考	年齢	最小個体数
133006	加曾利南 AJ9	AJ9	64KS 1トレンドー4 区 1~21~44	1964.8.8~10	右頭頂骨片を含む頭蓋冠片×4	成人	1
133007	加曾利南 AJ10	AJ10	64KS 1トレンドー4 区 1~21~44	1964.8.8	右脛骨	成人	1
133008	加曾利南 AJ11	AJ11	64KS 1トレンドー4 区 1~21~44	1964.8.10	右膝蓋骨	青年	1
133009	加曾利南 AJ12	AJ12	64KS 1トレンドー4 区 1~21~44	1964.8.10	指骨(手の基節骨)	若年または成人	1
133010	加曾利南 AJ13	AJ13	64KS 1トレンドー4 区 1~21~44	1964.8.13	左脛骨、左頸骨、左距骨、左舟状骨、左第一第二中足骨	若年または成人	1
133011	加曾利南 AJ14	AJ14	64KS 1トレンドー4 区 1~21~44	1964.8.13	指骨(足の基節骨)	若年または成人	1
133012	加曾利南 AJ15	AJ15	64KS 8~44~9	1964.8.8	左上腕骨、右大腿骨	成人	1
133013	加曾利南 AJ16	AJ16	64KS 69~44~14	1964.9.1	右脛骨	若年または成人	1
133014	加曾利南 AJ17	AJ17	64KS 44~10~8	1964.8.8	脛骨(左?)	成人	1
133015	加曾利南 AJ18	AJ18	64KS 44~10~8	1964.8.8	左橈骨	成人	1
133016	加曾利南 AJ19	AJ19	64KS 44~11~5	1964.8.8	指骨(足の第一从此骨)	成人	1
133017	加曾利南 AJ21	AJ21	64KS 44~72~8	1964.8.8	左右踵骨、左距骨	成人	1
133018	加曾利南 AJ22	AJ22	64KS 44~73~9	1964.8.13	左第一中足骨、足蓋骨×1、手の指骨×3、左第一第二中手骨、右第二中手骨(生存状況からUNUT131060 加曾利南 2と同一個体である可能性が高い。)	若年(8歳前後)	1
133019	加曾利南 AJ23	AJ23	64KS 44~15~15	1964.8.11	右上腕骨、右腓骨、右膝蓋骨、右大脚骨、左脛骨、左第四中手骨、左第一中手骨(生存状況からUNUT131069 加曾利南 1と同一個体。)	若年(13歳未満)	1
133020	加曾利南 AJ25	AJ25	64KS IIIトレンドー2 区 44~64~23	1964.9.8	指骨(手の中節骨)	成人	1
133021	加曾利南 AJ26	AJ26	64KS 23~23~5	1964.8.25	左下顎第一大臼歯	若年(6歳以上)	1
133022	加曾利南 AJ27	AJ27	64KS 24~23~8	1964.9.15	右脛骨	成人	1
133023	加曾利南 AJ28	AJ28	64KS 23~23~18	1964.8.27	左尺骨	成人	1
133024	加曾利南 AJ29	AJ29	64KS 25~23~2,7,10,11,(2,16,17)	1964.8.22	頸蓋骨(上顎骨、前頭骨、額頂骨、側頭骨(左侧電復))、左上腕骨・尺骨	若年(15歳以上)と成人	2
133025	加曾利南 AJ30	AJ30	64KS 30~23~18	1964.8.26	下顎骨	幼児	1
133026	加曾利南 AJ31	AJ31	64KS 27~23~15	1964.8.26	頸蓋骨片	幼児	1
133027	加曾利南 AJ32	AJ32	64KS 31~23~10	1964.8.22	右大腿骨	成人	1
133028	加曾利南 AJ33	AJ33	64KS 32~23~6	1964.8.19	後頸骨	成人	1
133029	加曾利南 AJ34	AJ34	64KS 33~23~5	1964.8.19	頭蓋骨片×3(1つは薄く焼跡あり。他は厚く別個体の可能性)、蝶椎	若年または成人	2
133030	加曾利南 AJ35	AJ35	64KS 103~23~2	1964.8.12	上腕骨	成人	1
133031	加曾利南 AJ36	AJ36	64KS 104~23~1	1964.8.12	右上頸骨	成人	1
133032	加曾利南 AJ37	AJ37	64KS 23~26~7	1964.9.14	頸蓋骨	成人	1

第1表 加曾利貝塚出土人骨新規登録標本（続き）

LUMT	標本名	予備整理 No.*	出土位置 **	取り上げ日	部位・備考	年齢	最小個体数
133033	加曾利南 AJ39	AJ39	64KS 23-32-2	1964.9.12	左上顎第一乳中切歯、右下顎第一第二乳臼歯および第一大臼歯	幼児(2~3歳)	1
133034	加曾利南 AJ40	AJ40	64KS Vトレシチ -2 区 44-64-66	1964.8.21	左大脛骨	幼児	1
133035	加曾利南 AJ41	AJ41	64KS 54-66-14	1964.9.1	右橈骨	成人	1
133036	加曾利南 AJ42	AJ42	64KS 71-66-7	1964.8.27	右大腿骨(UMUT131067 加曾利南 10と接合するため同個体。)	成人(20代前半)	1
133037	加曾利南 AJ44	AJ44	64KS 66-20-1	1964.8.14	指骨(足の基節骨)	成人	1
133038	加曾利南 AJ45	AJ45	64KS 66-23-13		右膝蓋骨	成人	1
133039	加曾利南 AJ46	AJ46	64KS 66-24-12	1964.8.18	左橈骨	成人	1
133040	加曾利南 AJ47	AJ47	64KS 66-25-9	1964.8.28	下頸骨、右下顎第二第三臼歯	壯年	1
133041	加曾利南 AJ48	AJ48	64KS 66-26-8	1964.8.27	左大脛骨	成人	1
133042	加曾利南 AJ49	AJ49	64KS 66-26-6	1964.8.24	右側頸骨	成人	1
133043	加曾利南 AJ50	AJ50	64KS 66-27-10	1964.8.26	左頭頂骨	壮年または老年	1
133044	加曾利南 AJ51	AJ51	64KS 66-51-8	1964.10.2	後頭骨ほか頭骨片×1(後頭骨の接合から UMUT131070 加曾利南 16と同一個体。)	壯年	1
133045	加曾利南 AJ52	AJ52	64KS 66-54	1964.9.30	右尺骨、右肩甲骨、左右頸骨・有鈎骨・指骨×2、荐椎・腰椎・仙骨・肋骨片など骨片散点(手根骨および肩甲骨の対応関係から UMUT131071 加曾利南 17(少なくとも2個体が混在)と同一個体である可能性が高い。2個体分の荐椎を含む UMUT131071と合わせると計3個体が含まれる。)	壯年	3
133046	加曾利南 AJ53	AJ53	64KS 66-54	1964.9.30	右恥骨片、右三角骨、右第二中足骨(反対側および隣接する部位との対応関係からいずれも UMUT131072 加曾利南 18と同一個体の可能性がある。)	壯年	1
133047	加曾利南 AJ55	AJ55	64KS 66-63-16	1964.9.30	右第一中手骨	成人	1
133048	加曾利南 AJ66	AJ66	64KS 70-44-15	1964.8.13	荐椎	幼児(5歳前後)	1
133049	加曾利南 AJ69	AJ69	64KS 44-73-9	1964.8.13	左下顎中切歯、右肺骨、左半骨、胫骨近位骨端片(中切歯は UMUT131060 加曾利南 2 の下顎齒槽に合致し、肺骨も加曾利南 2 の左側と対を成すため、同一個体と考えられる。残りの部品も同一個体と見なして矛盾しない。)	若年(8歳前後)	1
133050	加曾利南 AJ70	AJ70	64KS 70-44-15	1964.8.13	右距骨	成人	1
133051	加曾利南 AJ71	AJ71	64KS 24-23-14	1964.8.28	右跗骨	若年または成人	1
133052	加曾利南 AJ73	AJ73	64KS 49-66-5	1964.8.25	左第5中足骨	成人	1
133053	加曾利南 AJ76	AJ76	64KS 66-27-10	1964.8.26	左大脛骨	成人	1
133054	加曾利南 AJ77	AJ77	64KS 66-26-8	1964.8.28	頸椎骨片散点	若年または成人	1

久保大輔・佐々木智彦・栗原防人著
「久保大輔と佐々木智彦について」(1996年)、『久保大輔』(1996年)。

第1表 加曾利貝塚出土人骨新規登録標本（続き）

UMLT	標本名	子細整理 No.*	出土位置 **	取り上げ日	部位・備考	年齢	最小個体数
133055	加曾利南 AJ79	AJ79	64KS 66-56-22	1964.10.3	右上腕骨 (UMUT131071 加曾利南 17と接合するため同一個体。)	壯年	1
133056	加曾利南 AJ81	AJ81	64KS 出土地不明	1964	左距骨	成人	1
133057	加曾利南 AJ83	番号なし	64KS VIトレンチ 66-1~85	1964	左大腿骨。兩ㄇ字VIIトレンチから出土している既報告個体骨(9.15~18.20 号)のいずれとも別個体。	成人	1
133058	加曾利南 AJ84	(カ-B-67)	64KS 66-9 H1層 K1層	1964	前頭骨ほか頭骨片×1	成人	1
133059	加曾利南 AJ85	(カ-B-5)	64KS 66-57 第3A層	1964	下頬右第二大臼齒	青年	1
133060	加曾利南 NB2	NB2	64KS Iトレンチ-1 区 1-21-44	1964.8.13	左大腿骨、右脛骨×2	新生児	2
133061	加曾利南 NB3	NB3	64KS Iトレンチ-4 区 1-21-44	1964	左大腿骨	胎兒	1
133062	加曾利南 NB4	NB4	64KS Iトレンチ-4 区 1-21-44	1964	左鶲骨	新生児	1
133063	加曾利南 NB5	NB5	64KS 8-44-9	1964.8.8	左大腿骨、右上腕骨	新生児	1
133064	加曾利南 NB6	NB6	64KS 44 73-8	1964.8.12	下頬骨、歯×4 (下頬左右第一第二乳臼齒)、右上腕骨、左大腿骨	新生児	1
133065	加曾利南 NB7	NB7	64KS 44-73-13	1964	左右距骨、左腓骨	新生児	1
133066	加曾利南 NB8	NB8	64KS 44-74-5	1964.8.12	右大腿骨	新生児	1
133067	加曾利南 NB9	NB9	64KS 23-23-13	1964.8.22	左上腕骨	新生児	1
133068	加曾利南 NB10	NB10	64KS 25-23-7 第2貝殻	1964.8.22	右側頸骨	若年または成人	1
133069	加曾利南 NB11	NH11	64KS 29-23-11	1964.8.18	右橈骨	新生児	1
133070	加曾利南 NB12	NB12	64KS 31-23-10	1964.8.22	左上腕骨	新生児	1
133071	加曾利南 NB13	NB13	64KS 31-23-18	1964.8.15	右尺骨	新生児	1
133072	加曾利南 NB14	NB14	64KS IIIトレンチ 3区 23-42-23	1964.8.27	左脛骨	新生児	1
133073	加曾利南 NB15	NB15	64KS 23-26-11	1964.9.16	左大腿骨×2、右大腿骨、左上腕骨	新生児	2
133074	加曾利南 NB16	NB16	64KS 23 31-4	1964.9.12	胫脛骨	胎兒	1
133075	加曾利南 NB17	NB17	64KS 23-33-18	1964.9.17	左上腕骨	新生児	1
133076	加曾利南 NB18	NB18	64KS 23-34-1	1964.9.14	右尺骨	新生児	1
133077	加曾利南 NB19	NB19	64KS 23-35-18	1964.9.15	頸蓋骨 (左右の顎骨、右側頸骨、頭頂骨、蝶形骨直後部 (postnasaloid)、左上腕骨、左右下頸骨)、歯×2 (下頬乳中切歯、左第一乳臼齒)、主要四肢骨 (左右膝骨、右尺骨、右左大腿骨・胫骨・腓骨、右坐骨、左恥骨)、その他指骨、中手・中足骨および肋骨片数点	新生児	1
133078	加曾利南 NB20	NB20	64KS Vトレンチ 1区 66-85-66	1964	右大腿骨、左上腕骨	新生児	1
133079	加曾利南 NB21	NH21	64KS 60-66-8	1964.8.25	左上腕骨、左尺骨	胎兒	1
133080	加曾利南 NB22	NB22	64KS 66-27-13	1964.8.28	右尺骨	新生児	1

第1表 加曾利貝塚出土人骨新規登録標本（続き）

UMUT	標本名	予備整理 No.*	出土位置 **	取り上げ日	部位・備考	年齢	最小個体数
133081	加曾利南 NB23	NB23	64KS 66-45-6	1964.10.5	左股骨(加曾利南 20 の右股骨と同一個体と見なして矛盾しない。)	新生児	1
133082	加曾利南 NB24	NB24	64KS 66-45-7	1964.10.6	左橈骨、右蹠骨	新生児	1
133083	加曾利南 NB25	NB25	64KS 66-17-3	1964.9.22	下頸骨、左大脛骨、中手骨あるいは中足骨×1	新生児	1
133084	加曾利南 NB26	NB26	64KS 66-53-16	1964.9.30	左大脛骨、左脛骨	新生児	1
133085	加曾利南 NB27	NB27	64KS 出土地不明	1964	左右蹠骨	新生児	1
133086	加曾利南 NB28	NB28	64KS 出土地不明	1964	下頸骨	新生児	1
133087	加曾利南 NB30	NB30	64KS 32-23-4	1964.8.18	右上腕骨	新生児	1
133088	加曾利南 NB32	NB32	64KS 23-32-1	1964.9.11	主要四肢骨(右上腕骨・橈骨・尺骨・左大脛骨・右大脛骨×2、左脛骨・左鎖骨×2)、その他肋骨片など数点	乳児(1才前後)	2
133089	加曾利南 NB33	NB33	64KS 66-52-9	1964.9.21	左尺骨、その他肋骨片など数点	乳児(1才前後)	1
133090	加曾利南 NB36	NB36	64KS Vトレンチ I-85-66	1964	頭蓋骨(頭蓋冠片×2)	乳児	1
133091	加曾利南 NB38	NB38	64KS 23-29-16	1964.9.10	左上腕骨、他骨片	新生児	1
133092	加曾利南 NB39	NB39	64KS 23-34-7	1964.9.15	左鶏骨	新生児	1
133093	加曾利南 NB40	NB40	64KS 23-26-11	1964.9.16	左股骨	新生児	1
133094	加曾利南 NB41	NB41	64KS 23-25-12	1964.9.16	左大脛骨	新生児	1
133095	加曾利南 NB43	番号なし	64KS I-トレンチ 4 区 1-21-44	1964.8.10	右尺骨	新生児	1
133096	加曾利南 NB44	(カ-B 69)	64KS 66-49 第5層	1964	左鶏骨	新生児	1
133097	加曾利北 AJ6	AJ6	北貝塚出土地不明	1966? 1966?	左 I:鎖骨、頭蓋骨片、歯×4(左上顎犬歯、第一第三小白歯、第一大人臼歯)	社年	1
133098	加曾利北 AJ7	AJ7	65KN 第II調査区 34G.	1965.11.13	右腓骨、右胫骨、右脛骨、右蹠骨。(蹠骨はUMUT131057 加曾利北 II-5の蹠骨片と接合し、胫骨も同北II-5の左側と対を成す。現りの2点も北II-5と同一個体と見なして矛盾しない。)	社年	1
133099	加曾利北 AJ8	AJ8	65KN 第I調査区 40G.	1965.10.11	左右大脛骨、左脛骨、脛骨片(右?) (出土位置と部位から加曾利北 I-5の脚部である可能性が考えられる。)	成人	1
133100	加曾利北 AJ56	AJ56	65KN 第II調査区 8G.	1965.10.26	左頸頭骨	成人	1
133101	加曾利北 AJ59	AJ59	65KN 第II調査区 27G.	1965.11.11	右頭頂骨	成人	1
133102	加曾利北 AJ60	AJ60	65KN 第II調査区 25G.	1965.11.10	右上腕骨、左右尺骨	成人	1
133103	加曾利北 AJ62	AJ62	65KN 第I調査区 8G.	1965	頭頸骨、後頭骨、左上腕骨	成人	1
133104	加曾利北 AJ2	AJ2	66KN 肌層区 Cトレンチ 7G.	1966.6.14	前頭骨	若年または成人	1
133105	加曾利北 AJ3	AJ3	66KN 肌層区 Cトレンチ 7G.	1966.6.15	左上腕骨	成人	1
133106	加曾利北 NB1	NB1	66KN 肌層区 Cトレンチ 4G.	1966.6	左大脛骨	新生児	1
133107	加曾利北 AJ4	AJ4	67KN IJ層区 Bトレンチ 7G.	1967.11.22	右上腕骨	成人	1

第1表 加曾利貝塚出土人骨新規登録標本（続き）

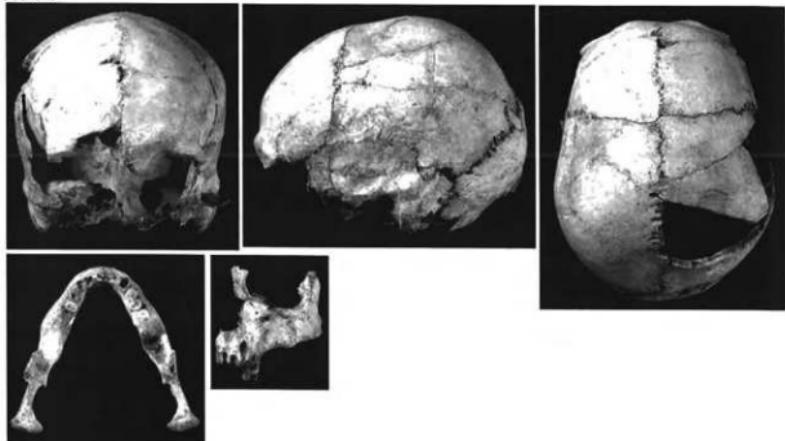
LMUT	標本名	予備整理 No.*	出土位置**	取り上げ日	部位・備考	年齢	最小個体数
133108	加曾利北 NB35	67KN J1層区 Bトレンチ 6G.		1967	右上腕骨	新生児	1
133109	加曾利北 AJ57	AJ57と当初はAJ58に混入していた四肢骨片若干	67KN 貝塚区 Bトレンチ 5G.	1967	主要個体は若年で、頭蓋および下頬骨、主要四肢骨(左右鎖骨、右肩甲骨、左上腕骨、尺骨、桡骨、右大腿骨、左大腿骨、左外側骨、中間側板骨)、中足骨(左右第1-第5)、ほか椎骨、肋骨、胸骨、および歯×27(上顎右中切歯・犬齒・第一小白歯・第一第二乳臼歯・第一第二犬歯・下顎左中切歯・犬乳歯・第一第二乳臼歯・第二第三犬歯・下顎左中切歯・乳犬歯・第一第二乳臼歯・第二第三小白歯)からなる。年齢及び山上部位から1967年出土加曾利北第13号人骨と矛盾しない。AJ58とは別個体の成人の歯×3(上頬右第一・第二小白歯、下顎右中切歯)と若干の頭骨片が混入。	新生(9歳前後)と成人	2
133110	加曾利北 ("68.01	AJ58 (発掘時 No.4)	68KN J1層区 Bトレンチ	1968.4.25	左上腕骨・尺骨・橈骨・左大腿骨・脛骨・腓骨・寛骨・右外側板骨、中足骨(左第2右第3)、足の指骨(第2第3基節骨)、椎骨(下位胸椎、腰椎、仙骨)、肋骨からなる。なお購入時点では、加曾利北 AJ57 主要個体の左尺骨・橈骨片、左距骨、および中足骨(右第1左第1)が混入していた。	成人	1
133111	加曾利北 ("68.42	NB29 (発掘時 No.7)	68KN 第1調査区	1968.4.27	頭蓋骨(下顎骨片×2、頭蓋冠片×2)、歯×6(下顎中切歯、下顎左右乳側切歯、下顎左右犬歯、下顎右第一乳臼歯)、主要四肢骨(左上腕骨・左尺骨・左大腿骨)、その他中手・山足骨、椎骨および肋骨片数点	乳児(生後半年から1年)	1
新潟大学医学部に移管	AJ1	62KN 第1地点 IIトレンチ-1 区		1962.8.5	右大腿骨	成人	1
	AJ61	62KN 第1地点 IIIトレンチ		1962	後頭骨	若年または成人	1
	AJ64	62KN 第2地点		1962	1962年調査第3号人骨の頭蓋、下頬、歯×7(上顎左M2,M3、下顎右M1,左P3,P4)、前椎、軸椎、小片コレクション収蔵の第3号人骨の一部としてAJ64と接合・合致する右頸椎骨片、右上腕骨が存在する。	成人	1
	AJ65	62KN 第2地点		1962	1962年調査第5号人骨の頭蓋、歯×10(上顎右I1-M1、左I1-C1に加え、逆離歯として下顎左P3が存在)、小片コレクション収蔵の第5号人骨の一部としてAJ65の下顎に接する逆離歯(右M2)が存在する。また、AJ65の下顎逆離歯(左P3)に向人骨の下顎骨に属する。	若年	1
	番号なし	62KN 第2地点		1962	右頭頂骨。若年だが第5号人骨とは別個体。	若年	1
	NB34	62KN 第1地点 IIIトレンチ		1962	左大腿骨	新生児	1

* 今回の調査・研究に先立つ加曾利貝塚博物館による予備整理において、一部を除いて、各標本は「若年～熟年」、「新生児・乳児」に分類されており、それぞれNo.1からNo.82までとNo.1からNo.42までの通し番号が与えられていた。ここでは両者を区別するため前者をAJ、後者をNBと表記する。予備整理番号以前の番号があるものについては括弧内に示した。

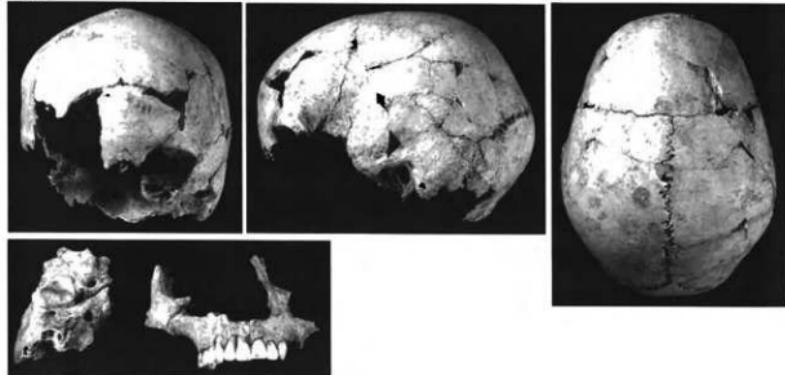
** 山上位置の先頭2桁は発新(西面)の下2桁であり、KNは北貝塚資料を、KSは南貝塚資料を表す。調査区やトレンチの名称、クリップ番号がそれに続く。加曾利南について、ハイフンで結んだ数字は前に、南北グリッド番号、東西グリッド番号、南北グリッドから出土した遺物とその出土位置に与えられた通し番号である(通し番号の詳細については加曾利貝塚博物館の遺物台帳参照のこと)。

例) 64KS 44-73-8 * * * 1964年加曾利南貝塚調査においてグリッド番号 44-73-7 の地点から出土。

AJ64

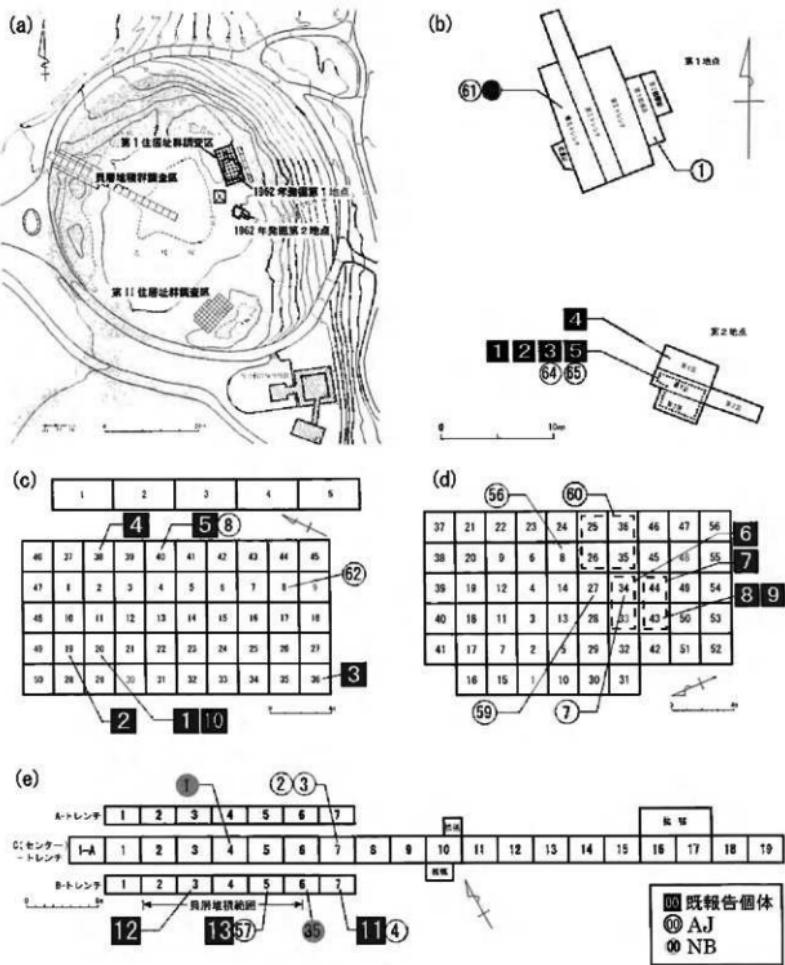


AJ65



第 1 図 今回の調査で確認された 1962 年加曾利北貝塚出土人骨の頭蓋部位

新潟大学小片コレクションの加曾利北貝塚第 3 号人骨と 5 号人骨に属する頭蓋部位。県立千葉高校郷土資料室から検出された 1962 年北貝塚調査由来の成人の部分頭蓋と下顎(予備整理番号 AJ64、第 3 号人骨)、および若年の部分頭蓋(予備整理番号 AJ65、第 5 号人骨)からなる。なお、AJ64 に欠けている右頭頂骨片と右上顎骨、AJ65 に欠けている上顎右第 2 人臼歯は、以前より新潟大学小片コレクションの第 3 号人骨、第 5 号人骨の一部として保管されていた。



第2図 1962年から1967年にかけて加曾利北貝塚で採集された人骨の出土地点

(a) 北貝塚全体と調査区の位置関係。武田・宍倉(1975)Fig. 5と後藤(1977a)第2図をもとに作成。

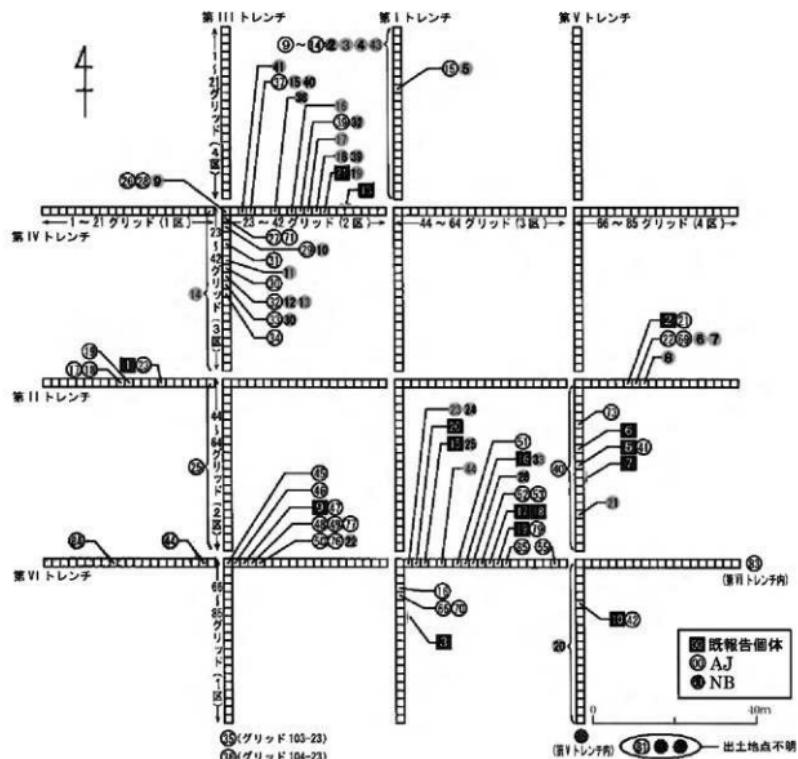
(b) 1962年に採集された人骨の出土地点。武田(1975b)Fig. 2を改変。既報告資料の出土地点は宍倉(1975)による。なお、このほかに若年の左頭頂骨1点(番号なし)が第2地点から出土しているが正確な出土場所が不明であるため図示していない。

(c) 1965年に第1住居址調査区で採集された人骨の出土地点。後藤(1977a)第3図を改変。既報告資料の出土地点は後藤(1977b)による。

(d) 1965年に第II住居址調査区で採集された人骨の出土地点。後藤(1977a)第4図を改変。既報告資料の出土地点は後藤(1977b)による。

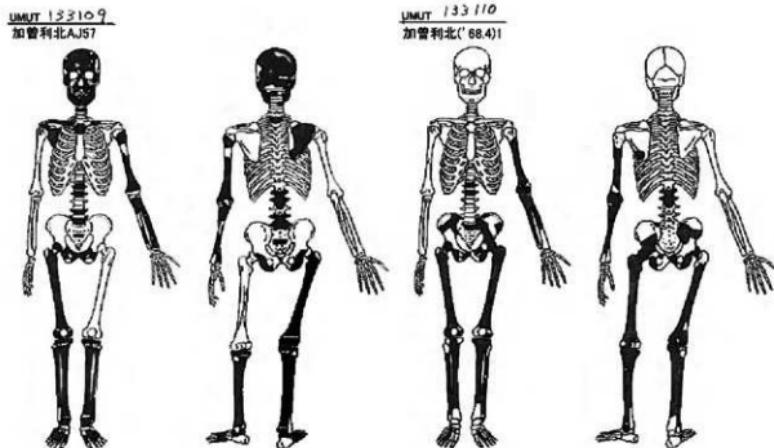
(e) 1966年から1967年にかけて貝層堆積群調査区で採集された人骨の出土地点。後藤(1977a)第5図を改変。既報告資料の出土地点は後藤(1977b)による。

なお、1968年4月調査で貝層堆積群調査区から成人1体(AJ58、加曾利北('68.4)1)、第I住居址調査区から乳児1体(NH29、加曾利北('68.4)2)の人骨が出土している(本文参照のこと)。



第3図 1964年加曾利南貝塚で採集された人骨資料の出土地点

後藤(1976a)第2図を改変。なお既報告個体のうち現在所在不明のものは図示していない。



第4図 加曾利北 AJ57(UMU133109) および加曾利北('68.4)1(UMU133110) の保存状況
(黒い部分が残存している部位)